資料２

渡良瀬遊水地第２調節池周辺地区治水事業促進連絡協議会の活動

会長　米　田　　弘

当協議会は、第２調節池に隣接する、小山市（生井・寒川地区）、栃木市（旧藤岡町巴波川周辺地区）、野木町（友沼川西地区）の住民が、団体を組織して各々治水活動してきたが、より強固な治水活動団体にしようと、平成１７年９月に組織された。

団体の目的は、渡良瀬遊水地第２調節池の治水容量の確保及び思川、巴波川等の堤防強化をする治水事業を推進し、かつ、速やかな洪水予報・伝達方法の確立をめざし、周辺地区の安全を確保することである。

このため、周辺地区内の住民の治水に対する意思確認をするため、平成１８年には署名活動を実施し、約５，５００人の署名を集め、国・県・市・町に要望書として署名簿を提出した。

その後も、先進地や第２調節池内の試験掘削などを視察し、毎年、国土交通省関東地方整備局や利根川上流河川事務所、栃木県等に、第２調節池の掘削による治水容量の確保、掘削土による堤防の強化、思川・巴波川の河床掘削と樹木伐採による流下能力の確保、緊急避難場所（河川防災ステーション）の設置などを要望してきた。

要望のかいもあって、調節池の堤防も少しずつ強化され、思川の川西地区の堤防の一部、巴波川の堤防強化も進められてきた。

ラムサール条約湿地登録されてからは、協議会としても治水機能確保を最優先することを条件に「エコミュージアム化」に同意し、遊水地の活性化についても要望活動に加えた。

地域住民に活動状況を報告するため、会の発足時から、年２回程度、「遊水地だより」を発行し、遊水地周辺住民の意識を高めてきた。

今後も治水機能確保を最優先に、周辺地区の活性化も含めて事業を推進していく考えであり、特に緊急避難場所となる防災ステーションの早期整備を要望していく考えである。

渡良瀬遊水地関連地域活性化協議会の活動状況について

会長　落　合　良　行

当地域は、渡良瀬遊水地第２調節池や旧思川などと隣接し、自然環境豊かな地域であるとともに、広大な優良農地が広がる田園地帯である。しかしながら、昔から水害に悩まされた地域でもあったことから、遊水地関連地域における、治水対策及び地域の活性化を目的として、平成元年に渡良瀬遊水地関連地域活性化協議会を発足させた。

当初の活動は、１９４７年のカスリーン台風により地域は大被害を受け、その後も大雨が降るたびに水害の恐怖に悩まされたことから、危険性を感じてか地域からの人口流失も始まり、また、遊水地自体が、長年の土砂の堆積により、乾燥化されたことから、遊水地の掘削による治水容量の確保、堤防の強化を中心に国や市に要望活動を始めた。

平成１７年には、要望活動も実り、国により、一部の堤防が強化され、生井桜堤が完成し、４７本の思川桜が植樹されたことから、以後毎年、この場所を活用し、地域の活性化を図ろうと、「生井桜まつり」が開催され、その後、恒例化となり、現在は地域の交流の場として定着しており、「江東区水辺と親しむ会」が遊水地の清掃活動に訪れた際に、桜まつりが開催されていたことから、これを契機に、以後毎年交流が続いている。

また、ラムサール条約湿地登録の話があった時も治水機能を最優先することを条件に協力し、平成２４年７月に登録され、その後も、平成２６年に国により７００メートルの堤防強化がされ、遊水地内も掘削によるエコミュージアム化も始まり、遊水地の治水と活性化の両面が始まったことから、地域としても大変喜んでいるところである。

現在の活動としては、利根上や小山市と協力して、遊水地内のごみの清掃や、外来種の雑草の駆除などにも参加し、都市との交流としてのエコツアーにも協力している。

遊水地のヨシ焼きについては、会の発足当時から、地元自治会とも協力し、参加していた。

今後も国や小山市とも連携していき、特に、小山市が進めている「渡良瀬遊水地関連振興５カ年計画」を推進し、防災広場の整備や堤防の強化など治水活動を中心に実施していくが、遊水地のエコミュージアム化や旧思川の整備、環境にやさしい農業を中心とした地場産業なども推進していく考えである。

第 54 回渡良瀬遊水地野鳥観察会（遊鳥会）定例会（平成 27 年 3 月 21 日）

前回（2 月 21 日）は、今回のチュウヒの繁殖調査の事前調査を兼ねて、渡良瀬遊水地を一周してきました。予想通り鳥は少なく、桜堤から湿地再生地を見てタゲリにダイサギ、堤外に、早すぎると思いますが巣（カラスの空き巣？）に座っているトビ、部屋でノスリ、第 3 調節地にミサゴがいたくらいで、肝心のチュウヒにはお目にかかれませんでした。

今回は、ヨシ焼き前のチュウヒの繁殖活動を調査します。皆さんから寄せられた情報と、私も同行したコンサルの調査結果を参考に、定点（ｓｔと表示）を決めます。また勝手ながらｓｔの担当企画員も決めさせていただきました。結果を来年のヨシ焼きに対応させようとするものです。調査は 9 時～12 時とします。

① 展望台北の、沼のほとりの丘（木村、真瀬）。特定の場所にこだわる２羽のチュウヒがいます。個体識別をしてください。真瀬さんには鮮明な写真をお願いします。

② 谷中湖東橋（五十畑）。浮島に止まる複数のチュウヒがいます。上空で雌雄がアクロバット飛行をしていました。個体識別をしてください。写真もお願いします。

③ タカ見台（長谷川、綾部）。ｓｔの北方向での再生された沼のほとりにこだわるチュウヒがいます。

④ 第２水門（関口）。ｓｔ前面左手の土手の斜面と、畑の手前の木に止まるチュウヒに注意してください。

⑤ 第３調節地（一色）。沼対岸のヨシ原にこだわるチュウヒがいます。

＊ 観察の要点は繁殖前期の行動の観察です。例を挙げます。メスが自分の存在をアッピールする「誇示止まり」をしています。その上空にオスが現れ、「波状飛行」をし、メスの近くに止まり、お互いに小移動を繰り返します。オスが飛立ち近くから枯葉をくわえて（足につかんで）メスの上空を低く旋回、その巣財を落として見せたります。オスの後を追ってメスが飛立ちます。もつれ合うように飛びつつ高度を上げていきます。オスが上方からつめを出してメスに「突き掛かり」ます。さらに激しくオスは翼をひねってメスを襲い、メスも下面を上にしてツメをだしてそれに応じます。時にはツメを絡み合うこともあります。これが「アクロバット飛行」です。どんどん高度上げ、やがて翼をつぼめて「急降下」し、いつの間にか、もとの場所に戻ってきます。

＊ 調査用の地図には、飛行軌跡　　、止まり　　、波状飛行　　、巣財運搬
アクロバット飛行　　、急降下　　、と記載し、余白に状況を記録してください。旋回しながらの移動は直線で結構です企画員には個体識別用の用紙を配ります。適時に利用してください。

＊ 個体識別は、２羽が特定の場所にこだわるケースで行ないます。チュウヒの雌雄の識別は難しいのですが、オスはメスより小さく、飛翔形がスマートで、尾羽全体が灰色味を帯びているか、尾羽の中央付近が灰色を帯びているのが普通です。メスの下面はべったりした感じの茶色なのが多いようです。

（写真ひだりから、空中餌渡し・上オス、下メス。オス。オス。右端上、巣財運搬・メス。下メス。写真・市川氏）

@ 4 月定例会（4 月 18 日）は、シギチの渡来状況を調べます。場所は千本杭、湿地再生地、第 3 調節地の沼、その他、としましょう。ご意見あれば・・・。

（一色）